

双葉町各種支援員の紹介



11月6日から復興支援員
(総括)として**田村岳男**さん
がいわき事務所復興推進課
に勤務しています。

復興支援員に着任した田村岳男と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。慶應大学院卒業後、子どもや障害者の参加のまちづくり、その後、世界でのまちづくりを
目指し、災害や紛争で離散、難民化した住民の帰還事業を、スーダン、ミャンマー、イラク、フィリピン等々で行いました。

3・11後は、津波で壊滅した気仙沼本吉病院と地域医療の再生のため、在宅医療介護の枠組作りを担当、また、故郷山形では、福島から避難された子どもの保育園の設立等も行いました。

私は、地域と家族と自分の再生のためには、過去の新しい意味づけをとまなう「物語づくり」が必要だと思つています。不幸、病氣、死別、別離等々、人間はその意味を求め続けます。だから、同じ悩

みを持つ者同士が安心して言葉を交わし、過去の受容とその意味を言葉に紡ぎ、癒す場が大切だと思います。また、その場は、お互いがお互いと寄り添い合うことで、否応なく次々と直面する日々
の問題や雑務に立ち向かうこととも可能にしてくれま

双葉町の方のためのそんな場がつくられ、そこから、ともに、自治会の活動や、NPO、行政の事業、そして、子どもやお年寄りやみんなの地域の楽しいお祭りや憩いの場が、再生することを目指し、そして、その時、双葉町の方が、「あんな時代も／あつたねと／きつと笑つて／話せるわ。そんな時代も／あつたねと／いつか話せる／日が来る」ように祈りながら、誠心誠意取り組んでいきたいと思いま

11月1日から復興庁の支援員として**草野恵美**さんがいわき事務所教育委員会教育総務課に勤務しています。



このたび、支援員として双葉町教育委員会教育総務課に配属になりました草野恵美と申します。いわき市出身です。

10月28日から福島県雇用促進支援事業により雇用促進支援員として**相樂比呂紀**さん(新山)がいわき事務所産業建設課に勤務しています。



このたび、福島広域雇用促進支援協議会に入職し、双葉窓口に配属となった相樂比呂紀です。震災から2年半以上

今年6月末までの2年間国際協力機構(JICA)、青年海外協力隊としてフィリピンに派遣され、町の産業活性化のための活動をしています。フィリピンで広めた見聞や様々な経験を地域に還元しながら、故郷福島に元氣を与えたい。また、地元人である私が自ら立ち上がり、福島のさらなる復興のお手伝いをしたい。そのような想いから復興支援員になりました。

教育総務課では生涯学習を担当させていただくことになりましたので、今後、町民の皆さまには生活学級でお会い

する機会が増えると思います。フィリピンで学んだ『相手の視点に立つて支援することの大切さ』を活かし、町民の皆さまの声に耳を傾け、皆さまとの交わりの時間を大切にしていきたいと思つています。皆さまから双葉町のことをたくさん教えていただきたいと思つていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

経ちましたが、多くの方々が現在も様々な事情により県内外で避難生活を余儀なくされております。また、健康面や仕事・暮らしなどの生活面で厳しい状況のもとに置かれ、不安な毎日を送られていることとお察しいたします。当協議会では、そのような厳しい状況の中、ふるさとへ帰還を望んでいる方や既に帰還している方々の雇用の安定を図るために、とくに有効だと考えられる事業を企画・運営しております。私たちのふるさと復興は先が長く、私個人としては、いま何をすればいいのかはつきり分からないのが

本音です。

しかし、全国に避難している方々や地元に住居している方々の心情を考えると、何かをせずにはいられません。ご自身の復興、ご家族の復興、企業の復興、地域の復興、ふるさととの復興を皆さまと共に進め、いつかみんなに心安らげる時が訪れますように微力ではあります。ご頑張りです。ご指導・ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。また、いわきへお越しの際は、ぜひ窓口へいらしてください。お待ちしております。

